

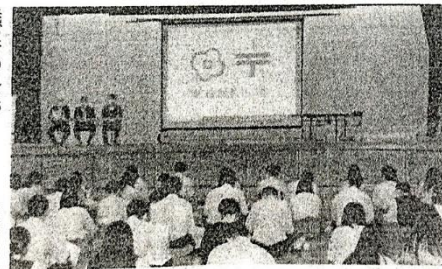
高校生と地域貢献を討論

東京都西北部連絡会豊島西部会が連携施策

東京都西北部地区連絡会(西原直統括局長/豊島長崎六)の豊島西部会(南雲英雄部会長/豊島千川駅前)は、東京都立千早高等学校と地域貢献活動の連携施策を行った。千早高校の授業で地域貢献の講義を行い、その中で活動実施案を討議。提案を受けて可能な案を精査し、部会・連絡会等で実践していく。

千早高校の生徒数は1004年にビジネスコミュニケーション能力が高学年クラス35人、6ヶ月ミニビジネス科目を設け、物物しするとなり、クラス構成で210人、3ヶ月、英会話「ビジネス」大人とティスカッション、学年で630人となる。ミニコミュニケーションが可能な生徒の育成を図る。17年前に都立千早商業高等学校と都立地産商業高等学校と都立地産商業高等学校と都立地産商業高等学校が統合し、新しい「通」を通して実践に重点を置いた授業を行っている。2 英会話ができ、コミュニケーションが得意な女子が多い。

郵便局との授業は7月12日と15日の両日、2学年の6クラスを対象に3クラスずつ同内容の2回開催された。具体的な取り組みは、授業を通じて各種連携先(プロジェクト)を考案実践するといったもの。

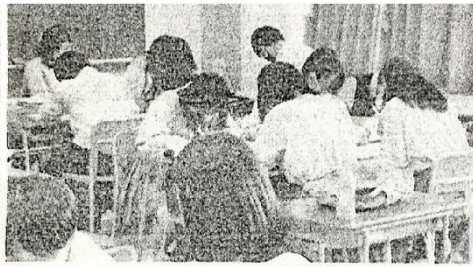


講義を聴く生徒たち



講義する(左から)南雲部会長、西原統括局長、荻野リーダー

1コマ45分で4コマ。1コマ目に南雲部会長から説明し、地域貢献の具体的な例をあげながら生徒たちに分かりやすく説明。荻野リーダーは「郵便局がネットワークを活用した他の企業のフットホームなことを目指し、企業のメリット、企業ブランドアップに結びつけたい」と話した。その上で今回のティスカッションのテーマ「郵便局と豊島区がWinXWinとなる提案を作り発表してみよう!」を提示。生徒たちが郵便局入社2年目の社員として



生徒らによる活発なディスカッション



局長が議論のイメージをアドバイス

局長からこのテーマを与えられ、プレゼンテーションするといった設定で授業が進められた。2コマ目は講義を受けてのグループ討議。郵便局が豊島区の中でどのようなアプローチ

すれば地域貢献につなげることができるのか、生徒たちは郵便局、豊島区、強み、弱みを洗い出し、郵便局X豊島区をWinXWinにするために、ティスカッションした。最初はなかなかイメージがつかめなかった生徒たち。豊島西部会の参加した局長たちがグループを回り、いろいろなアドバイスを、今の仕組みに合わせられない柔軟な発想で、生徒たちが目覚め、感じている郵便局への

イメージを導き出していった。「郵便局は若者より高齢者の利用者が多い」と地域に密着したサービスができる「それをどうやってビジネスにつなげるのか」などの話があり、地域活動貢献について議論した。

4コマ目はグループ討議の発表。それぞれのグループがどうしたら郵便局と豊島区がWinXWinの関係になれるのかの討議内容を豊島西部会の局長にプレゼンテーションした。発表を受け、各局長が講評。西原統括局長は「全体的にグループを見て短時間で、しかもこれだけの時間の中に豊島区、郵便局の強み、弱みを分析抱負を語った。」

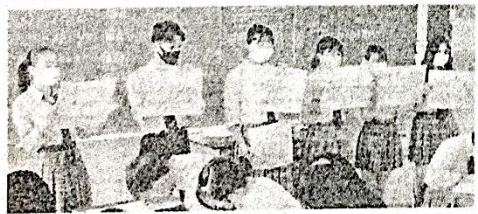
してまわっていた。発表用紙も分業で作られており、各自が責任もって取り組んでいることに感心した。討議内容は郵便局の課題をどうやって、現実を生かせるものもある。ネットワークを駆使した地方創生につなげたい」と話した。

南雲部会長は「今回の地域貢献活動の連携施策は、豊島区と何か活動ができないかという中で、千早高校が企業との連携施策を行っているというを知り、興味を持ち話を伺ったのがきっかけ。地域貢献の取組みは一過性のものでなく、継続して取り組んでこそ活動としていきたいと思います」と抱負を語った。

高校生が提案、郵便局と地域の連携施策 東京西北連絡会と都立千早高校がコラボ



郵便局と地域の連携施策を生徒が議論し、プレゼンした



「郵便局の強みと弱みって?」。高校生が郵便局と地域の連携施策を討議する取り組みが7月12・15の両日、東京西北部地区連絡会（西原直希統括局長／豊島長崎六）の豊島西部会（南雲英雄部会長／豊島千川駅前）と東京都立千早高等学校がコラボして行われた。

生徒たちは事前に日本郵政グループや地元・豊島区について学習。2014（平成26）年に「消滅可能性都市」に指定された同区と、どのような連携施策が提案できるか、同部会メンバーも加わって熱心なディスカッションが繰り広げられた。生徒からは「郵便局

に切手型のプリクラを!」「レシートで商店街の割引は」「子どもを預かる『郵便局保育園』設置」などユニークかつ斬新な提案が次々と飛び出した。同校の親泊寛昌主幹教諭は「こういう授業は普段はできない。生徒たちは郵便局をあまり利用していないが、かえって自由な発想で驚いた」と目を輝かせ、感動あらわにニッコリ。

西原統括局長は「意見を出し合い、役割分担をしたプレゼンは素晴らしい。現実味のある提案が多く、今後も連携していきたい」と意欲を示した。

通信新聞

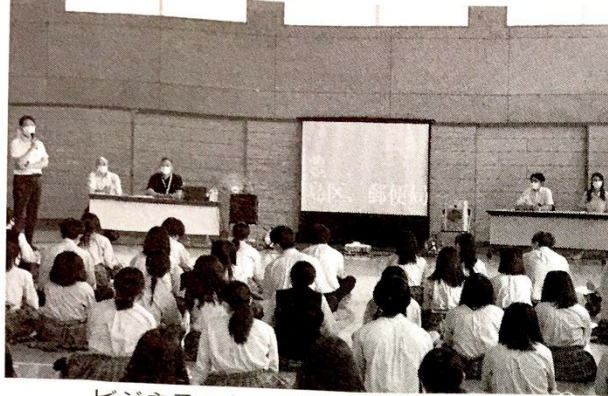
発行所
 株式会社 通信新聞社
 編集発行人 成迫 恵三
 本社 〒105-0004
 東京都港区新橋1-18-2
 明宏ビル 2F
 電話 (03) 3506-1919
 F A X (03) 3506-1921
 メールアドレス
 tushin2_np@helen.ocn.ne.jp
 振替口座 00160-2-180305
 定価・年 10,800円(月 900円)
 消費税・郵送料込み

高校生の斬新なアイデア募る 地域貢献活動に活用

東京都西北部・豊島西部会

高校生の柔軟で大胆な発想を地域貢献活動のヒントに。東京都西

北部地区連絡会(西原直希 統括局長・豊島長崎六 局長)の豊島西部会(南

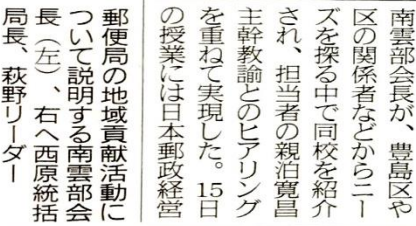


ビジネスコミュニケーション科の2年生を対象に行われた講義(7月15日)

雲英雄部会長(豊島千川駅前局長)は、豊島区都立千早高校と連携して7月12、15の両日、郵便局が展開する取組などについての講義を同校で開き、生徒たちからアイデアを募った。



ビジネスコミュニケーション科の2年生210人を対象とし、6クラスを3クラスずつに分けて同じ内容の授業を1〜4限に2回実施。1限目に局長による講義、2、3限目にグループディスカッションを行い、4限目にプレゼンテーションでアイデアの種となるもの



2004年に開校した同校は、「英会話」「ビジネス」「コミュニケーション」の能力開発を目的とするビジネスコミュニケーション科を都立高では初めて設置し、様々な企業や自治体などの連携を行っている。全生徒630人のうち女子が8割、男子が2割で、積極的に物おしせずに大人とディスカッションできる元気な女子生徒が多い。初の試みとなる今回の取組は、全く新しい形の地域貢献活動を模索する南雲部会長が、豊島区や区の関係者などからアイデアを探る中で同校を紹介され、担当者の親泊寛昌主幹教諭とのヒアリングを重ねて実現した。15日の授業には日本郵政経営郵便局の地域貢献活動について説明する南雲部会長(左)、右へ西原統括局長、萩野リーダー

を発表する。その中から実施可能な案を部会内で精査し、生徒との連携を継続することで部会や豊島区内、連絡会(同区と練馬区)をはじめ、さらに広範囲なエリアでも展開できそうな施策を採

企画部サステナビリティ推進室の萩野泰史グループリーダーを招き、連絡会の西原統括局長、部会から南雲部会長、須田薫矢立教学院内、渋谷論豊島千早、菅家豊池袋四、中村和樹豊島要町一、谷口昌宏豊島長崎、安田真理子池袋サンシャイン通、相馬澄江池袋本町三の7局長、上石神井局の

大木美加さんが参加。ほすくまも駆け付けて、盛り上げに役買った。3クラスの生徒を集めた講義は武道場で行い、南雲部会長が郵便局の組織・成り立ちを説明し、現在展開中の主な地域貢献施策などを紹介した。萩野リーダーは郵政グループが目指す姿「お客さまと地域を支える」共

創プラットフォームについて話し、渋谷局長と大木さんが、千早高OGの入社2年目の郵便社員と上司の局長という設定でユーマを交えた寸劇を披露する中で、今回のミッション「豊島区と郵便局がWin×Winとなる提案」が示された。生徒は各教室で6〜7人のチームを組んで郵便局と豊島区双方の強み・弱みを分析しながらディスカッション。萩野リーダーと各局長がヒントを出したり、相談に乗るなどしてサポートした。プレゼンでは、郵便局の強みとして2万4000の店舗網・40万人の社員数、金融業務も取り扱っている、地域密着性、弱みは若い人が行かない(興味のあるものが売っていない)。コンビニエンスストアの方が便利、土日休み、デジタル化が進んでいない、豊島区の強みとして都内屈指の繁華街・池袋の存在、アニメ・サファルチャ

を述べる中で多種多様なアイデアが寄せられたことを喜び、「すくには難しいが、実現した時にはフィードバックしていくので期待して待っていてほしい」と呼び掛けた。西原統括局長は「皆さんのすこ技に感謝している。若い力を借りていけば、さらにビジネスチャンスが広がるだろう」と敬意を表した。南雲部会長は「私たちの会社にはポテンシャルがあり、変わる要素もある。興味があれば、入社して改革するぐらいになつてもらえればうれしい」と望んだ。

生徒たちから寄せられた主なアイデアの概要は次の通り。▽フレーム切手を即時に発行する機械の窓口への設置(写真シール作製機をイメージ)。デザインは規定の数種類から選べ、枠外に写真や発行した局名・日付などを掲載。▽郵便POSの領収書に景品の引換券を印字(10件に1件程度)。コンビニと連携し、スイートなど交換可能。▽アニメショップとコラボした区内各局を巡るスタンプラリー(限定グッズも販売)。▽女性向けに特化した企画(ロコミを来客誘致に活用)。▽保育所機能を備えた局舎(待機児童問題と郵便局のイメージ向上に寄与)。